

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせた作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-77

部門名： 1 校内研修プログラム開発 ・実践部門	エントリー名： 伊勢崎市立南小学校 久保田恭司 平成30年度 体力向上マネジメント指導者養成研修
活動名： 体力向上から学力向上へ ～児童・教員の協働的取組～	
解決すべき課題： 新体力テスト等の結果から、児童における課題として体力向上と運動の習慣化が挙げられた。また、本市の調査から、小学校教員は体育科の授業における苦手意識や負担感が多く、体育科における指導力向上が求められていた。そこで中央研修で学んだマネジメントを生かして、これらの課題と向き合った。	
目標・方針： 体育科の授業を充実することで、児童が体育を好きになったり、教員の指導力向上につながったりするであろう。そして「ひと手間の工夫」をすることで校内の体育的活動がより充実するであろう。その結果、充実感や達成感を持った児童や教員がその他の教科等においても生き生きと活動したり指導力を発揮したりし、児童の総合的な学力向上や教員の総合的な指導力向上にも有機的に働いていく。	
活動内容： まず全教職員で協働的な取組にするために、校内研修に位置付けた。次に学校教育目標に即して、体育科全体計画や体力向上コーディネートプラン（資料1）、カリキュラムマネジメントプラン（資料2）を作成し共通理解を図った。そして既存の体育授業プログラムやこれまでの実践を児童や教員の実態に応じて活用した。また、体力向上を健康教育の一環として捉え、委員会活動を通して健康教育の一層の推進を行った。その他にも、児童が運動を習慣化して取り組めるよう、休み時間等に遊んだり運動したりする場を工夫して設置した。教材や教具も「ひと手間の工夫」やアイデアを出し合い、全教職員が協働しながら簡便に作成した。地域とも連携して児童の運動や健康に対する関心や意欲を高める活動を行った。毎日の体育授業後に担任と体力向上コーディネーターとで体育交換ノートを書き、リフレクションを行った。	
活動の成果： 児童に表れた成果として、運動に好意的な児童が約9割になったことである（グラフ3）。また、新体力テストの結果に数値的な上昇も見られたことが挙げられる（グラフ4）。その他にも、新学習指導要領に即して思考力判断力表現力等を育むために、主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して実践したことから、自分の考えを表現できる児童も増えた（資料5）。 教員に表れた成果は、この2年間で体育科授業が充実し、苦手意識や負担感が減った教員が約9割に達したことである（資料6）。また、体育交換ノートでリフレクションを行い、教員ができるようになったことが明確になった。さらに、体育科授業で行った「めあてに即したまとめを行う」ことだったり、「体育で行われる慣れの運動が大切なように、その他の教科でも既習事項の確認が大切」と考えたり等、体育科を一つの入り口にした研修が、その他の教科等にも波及した（資料7）。	
アピールポイント（アイデアや工夫）： ① 今回の取組は、特別な業務分掌を設けなくても行うことのできる持続可能な研修である。 ② 体力向上の取組を校内研修に位置付けることで、体育科を中心とした教育課程全体の取組におけるPDCAサイクルの見直しを図れる。 ③ 体育科のみならず教育課程全体の中で、児童と教員が「なんでだろう」「こうしたいな」という問題に、児童同士や児童と教員、教員同士が協働して問題解決に取り組むことで、児童も教員も「できた・わかった・おもしろい」を実感し、学ぶことの楽しさや教えることのおもしろさ、人と人とが交流することで生まれる喜びを味わうことができる。	

<写真、図表添付欄>

資料1：体力向上コーディネートプラン

平成30・31年度 伊勢崎市立南小学校 体力向上コーディネートプラン

～体力向上コーディネーターを活用して、運動好きな児童を増やそう～

【体力向上COが行うこと】

- ※体育科授業のプラン（評価規準）を提供します。→先生方からも、ぜひプランを載せてください。
- ※体育科授業のプラン（評価規準）を提供します。→先生方からも、ぜひプランを載せてください。
- ※指導体制を工夫します。→いつでも授業のお手伝いをします。

【子ども（児童）にとってプラスに働くこと】

- 系統立てた内容で、質の安定した授業を受けることができる。
- 安全で安心して学習でき、自分たちで自主的に活動したくなったときに、自分たちで行うことができる。
- 他の、ものごとに対する心や思いやりの心を養うことができます。
- たくさん先生に見守られて学習ができる。
- 遊ぶことが楽しくなり、進捗する機会が増える。
- 一歩先の学びや挑戦が、コミュニケーション力にも役立ちます。QOL（クオリティオブライフ）につなげることができる。
- 地域や外部とつながり、活躍する場が広がる。
- 地域に対する愛着心や誇り、環境への優れなど、キャリア教育にもつながります。

【先生（教職員）にプラスに働くこと】

- 体育授業プランを知ることができ、評価規準も提供され、体育科における授業のスキルアップが図れる。
- 教材研究の時間が減り、その他の業務の時間が生まれる。
- 体育教科が学校の中心にしまっているのが分り、活用方法も分かる。
- 子どもと一緒に活動することで、自分の指導力向上にもつながる。
- 多くの専門的な指導者を知ることができる。

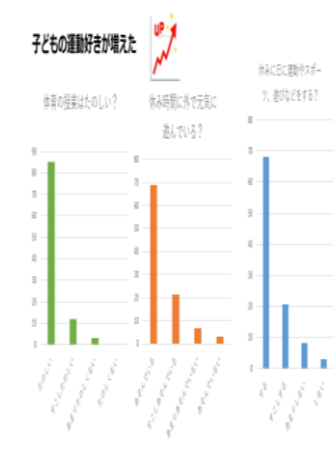
【おもしろいこと】

～「体力向上」を「モラル・マナー・マインド」にもつなげる～

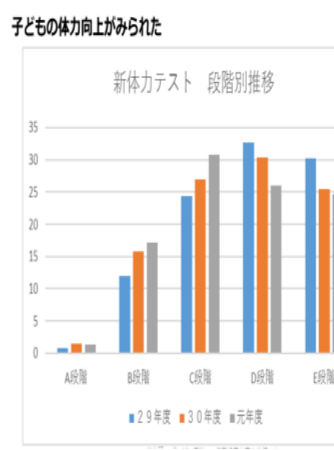
- 毎日の「もろ」を「もろ」に「もろ」に「もろ」を大切に。
- 移動は並んで静かに、（モラル）の「もろ」の活用。○準備・片付けは3分。○持ち物は、体育選手・探検バック・学習カード（使用しない内容もあり）・えんぴつ・消しゴム。○忘れ物の確認。○楽しい体育に向けた取組。

資料2：カリキュラムマネジメントプラン

グラフ3：



グラフ4



資料5

子どもの学力向上へ

資料6

教員の指導力向上

体育に関するアンケート（教師用）

Q1：今年度の体育科授業が、昨年度よりも充実していましたか？ はい・いいえ
 はい 100%

Q2：体育科授業への苦手意識や負担感は、昨年度よりも減りましたか？ はい・いいえ
 はい 90%

Q3：今年度の反省点や来年度に向けてのご希望、その他様々なお考えがありましたら教えてください。

資料7

教員の指導力向上（体育科以外のその他の教科との関連性）